

学校教育

今こそ学校統合に全力を

Q 次の3点について伺う。

1 町立小中学校施設 適正規模・配置計画 協議会の目的と内容及びその 進行状況について

2 町長提言後、どのように 現在使用中の学校の資産 価値を踏まえた建物状況に ついて

3 1点目について、この 協議会は、学識経験 者、地域住民、PTA関

係者等の中から代表を選び、 学校の規模・配置計画、進修 区域・手段と併せて校舎等の 跡地利用、公共施設等の整備 について、協議するとともに 幼児学園を含め提言をいただ くものである。

また、進行状況については、 既に4回開催し、児童・生徒 数の推移、通学手段、経費、 学校の運営費等の現状分析を 行い、学校統合の必要性を認 識しその協議の中で、小学校

3校、中学校1校の規模、配 置案を提示し、通学手段・方 法についても協議している。

2点目について、提言を受 けた後、内部で検討協議し、 議会にも相談し、地域住民へ の説明会を行い、計画内容を 提示し、理解を深めていただ き、なるべく早いうちにより 良い教育環境整備ができるよ う努力したいと思っています。

3点目について、学校とい う使われ方をしている限り、 資産価値としては差はないと 理解している。

防災

箱根町の「箱根火山」に 関する施策について

Q 次の考え方について、 町の諸点を伺う。

1 学校教育課程にお いて、箱根火山をどのよう に位置づけて、学習に活か されるか

2 防災マップやハザードマ ップの作成にあたり、過去に 起こった現象を調べ、今後起 こり得る現象の予測と現在 までの進捗状況について

3 箱根火山の学習の場とし

ての新たな教育施設建設の 時期を計画化する考えはあ るか

4 箱根火山の現状を知り、 今後を考えていくシナポジ ヴムを町で主催する考えは あるか

5 富士山ハザードマップの 検討結果を今後町の防災計 画にどのように反映するの か

1点目について、小 学校6年と中学校1年 に理科で、火山につい て学習しており、身近な活火

山として箱根火山を取り上げ ている。また、副読本に箱根 火山や地形について掲載して おり、この本を小学校3・4 年の社会で活用し、箱根の火 山、地形について学んでいる。

2点目について、火山噴火 等の現象予測については、過 去の文献や、県温泉地学研究 所をはじめ各研究機関の資料 及び研究者の文献等を基に、 過去の噴火現象を分析し、噴 火に伴う噴石、降灰、地滑り、 土石流、火山ガスなどについ て、様々な角度から検討し、 箱根火山の実態にあった火山 災害影響範囲等を予測するも のである。

次に、これまでの進捗状況 ですが、先に述べました噴火 現象や火山災害影響範囲等を 予測するため、現地調査を踏 まえ、2回にわたり検討委員 会に諮り議論、検討を重ね、 これらの結果を整理して現在 中間報告書の取りまとめをし ている。

3点目について、大涌谷の 火山、地震、温泉等の調査研 究や学習の場としての施設が 必要であると箱根町公営事業 計画審議会からの付帯意見を

踏まえ、大涌谷自然科学館に かわるものとして火山の生い 立ちや地震のメカニズム、温 泉などを学ぶ施設について、 庁内でのプロジェクトチーム を立ち上げ、その中で研究し ていきたい。

4点目について、防災マッ プを住民、観光客用に分け、 住民用は全世界に配布し、観 光客用については、旅館、ホ テル等の観光関連施設に配布 してPRを図っていきたい。

なお、シナポジヴムの開催 については、現段階では特に 考えていません。

5点目について、国・県の 動きを見ながら、また他市町 とも歩調を合わせながら、影 響が予測される降灰や土石流 に対する予防対策、緊急時の 応急対策、復旧対策などを見 極め、さらに現在作業中の箱 根火山防災マップの内容を取り 入れた防災対策について十 分検討し、箱根町地域防災計 画を改訂していきたい。



て学習しており、身近な活火

山として箱根火山を取り上げ

ている。また、副読本に箱根

火山の生い

